

【研究論文】

保育における保護者との関係づくりと保育者の業務負担  
—保育者主体の保護者支援から保護者主体の保護者支援へ—

Building Relationships with Parent and Work Burden of Childcare Workers in Childcare: From Support for Parents Centered on Childcare Workers to Support for Parents Centered on Parents

大村 壮<sup>1)</sup> 加藤 寿子<sup>1)</sup> 竹石 聖子<sup>1)</sup>

OMURA So, KATO Toshiko, TAKEISHI Syoko

<sup>1)</sup> 常葉大学短期大学部保育科

要旨

本研究では、保育施設の保護者との関係づくりについて保護者がどのように認識しているのか、そういった取り組みを通して、保育施設に対してどの程度満足しているのかを調査することが目的である。保育施設に子どもを通わせている保護者 2126 名を対象にアンケート調査を実施した。その結果、連絡帳等で子どもの様子を知らせるといった保育者主体の取り組みよりも保育者に対して話しかけやすいといった保護者主体の取り組みの方が満足度に関連していることが明らかになった。書き物などが持ち帰り仕事や残業になりやすいため、連絡帳等の業務を見直して、保護者が園を訪問しやすいような関係づくりを検討することが必要ではないかと考えられる。

キーワード 保護者主体、保育者主体、保護者支援、関係づくり、業務負担

問題・目的

保育所保育指針(2018)、幼稚園教育要領(2018)、そして幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2018)において子育て支援について述べられている。保育園、幼稚園、こども園において子育て支援に取り組むことは当たり前のことになっている。そしてこの子育て支援にはいくつかの側面があるが、園と保護者の関係づくりがその中心にある。それでは園と保護者の関係づくりに関してどのようなことが検討されていたのだろうか。

Bronfenbrenner(1979/1996)はメゾシステムにおいて、子どもを取り巻く環境として、子どもの家庭と幼稚園等の施設との関連について触れ、家庭と園の連携の重要性について触れている。現在取り組まれている子育て支援も家庭と園の連携のもとさまざまな取り組みが行われている。そしてその支援についての実証的研究も積み重ねられてきている。

保護者との関係づくりの手段として用いられるのは、連絡帳やおたよりといった書き物、送迎時の立ち話、保育参観や保育参加、そして保護者会といった保護者同士のつながりといったものが挙げられる。そのなかでもこれまでの研究でよく検討されているものとして連絡帳を通じた保護者との関係づくりがある(半澤, 2015; 林, 2015; 伊藤, 2017a, 2017b; 二宮, 2010, 2022; 須永, 2019, 2022)。これらの研究

では連絡帳での保護者と保育者のやり取りが保護者支援になるということが述べられている。ただし連絡帳を取り上げた上記の研究では、筆者の子どもなど1人の連絡帳を分析するという研究が多い(半澤, 2015; 林, 2015; 伊藤, 2017a, 2017b; 須永, 2022)。そのため連絡帳のやり取りがどの程度、保護者の支援に繋がるのかに関しては少し慎重に検討する必要があると思われる。またクラスだよりやクラス通信といった書き物が重要だとする研究もある(柴崎・会森, 2016)。そして保育記録の書き方をドキュメンテーションに変更し、保育を見える化したことで保護者から園での保育の様子がわかりやすくなったともされている(藤川, 2022)。ただしこういった書き物の問題点として、保育者の負担がある(藤川, 2022; 高橋, 2014)。

そして送迎時に保育者と保護者がコミュニケーションをとることで情報のやり取りをしている。日々のコミュニケーションはとても大切であり、それが保護者の支援になる(久保田・石野, 2018)。保育者との対話が保護者にポジティブな影響をもたらすことも明らかにされている(橋本, 2017)。西野(2008)は相談しやすい保育者の特徴として、ニコニコとしていて保護者に自ら挨拶してくる、子どものことを熱心に丁寧にみている人、そして保護者の話をよく聞いてくれる人を挙げている。それに対して保護者自身も自らの話を聞いてくれたことが一番良かったと述べ(上原, 2022)、話しかけてくれない保育者には話しかけづらいと述べている(保護者と保育者, 2017)。望月・工藤・山本(2013)によると、とにかく話を聞いてほしいという親が56.8%いる。この傾向は5年間変わらない。保護者は話を聞いてほしいという思いを抱きながらも相談しにくさを感じているようである。中山(2019)は半数近く44%の保護者が幼稚園教諭に対して相談しにくさを体験しており、相談しにくさの理由として、「保育者が忙しそうで話しかけにくい」というのがもっとも多く、「先生が相談を聞いてくれる雰囲気ではない」ということを報告している。その上で、相談しやすさに関しては、普段から保育者が保護者に声かけし、気軽にコミュニケーションを取れる関係性について言及している。保育者としても保育者は仕事に忙しくゆとりがなくなっており、送迎時に話をするというのが難しいということもある(望月・工藤・山本, 2013)。

保育参加や保育参観も園の保育について保護者に理解してもらうためにも重要だということでその効果について検討されている。一般的に保育参加は保育所で行なわれている傾向が高く、保育参観は幼稚園で行なわれている傾向が高い。隣谷・大谷・川上・牧田・丸山・黒江・美谷島(2016)によると人的・環境的な都合から幼稚園では保育参加が難しいと判断するケースもあるようである。ただし保育所でも保育参加を実施していないところもある(長谷川, 2016)。その中でも島津(2014)は幼稚園における保育参加を通して保護者と保育者の学び合いを促進し子どもをともに育てるという意識の醸成にもつながるとしている。一方で隣谷・大谷・川上・牧田・丸山・黒江・美谷島(2016)は、保育参加での気づきと保育参観での気づきに本質的な違いはないとしている。また保育所における保育参加に関して、大村(2018)によると一日保育士体験では保育参観とは違う学びを得ることができる。そしてこの保育参加において大切になるのが保護者の主体性・自律性とされている(大村, 2018; 島津, 2014)。

保護者会などで子育ての悩みを話し合い、同じ悩みや経験をもつ仲間として共感し合うことが保護者の支援になるということが指摘されている(永田, 2019; 安家・濱名・磯部, 2013)。そして保育所とし

でもそのような場を用意し保護者支援を行なっているところがある（丸国, 2022）。そして蓮見・松坂・栗木（2022）によると保護者自身も他愛のないおしゃべりをして悩みを共有したいといった思いを抱いていることがわかる。また丸国（2022）によると、保護者同士がつながり、子どものことを真剣に話し合う姿が保育者の支えにもなっている。このように保護者同士がつながることで保育者にもポジティブな影響がもたらされる可能性がある。

あまり先行研究で検討されることはなかったが、保護者との関係づくりにおいて保育者の意識として大切なのが保護者への信頼感であるといえる（認定こども園せりひじり幼稚園, 2016）。そして橋本（2022）は、保育者が保護者を信じ、その姿勢を示すことは保育者側から信頼関係を作っていくことになるとしている。保護者は幼稚園や保育園を調べて、ここならばということ子どもを預けることになる。そのため入園当初、保護者はその園をある程度は信頼しているといえるだろう。その一方、保護者は保育者から信頼されているという気持ちにはなれない。例えば37度程度の熱があるとする。しかし仕事を休むことはできない。自宅で子どもの世話をしたくてもできず、仕方なく保育所に子どもを預けるという親を想像してみる。これは筆者の経験したことだが、似たような経験をする保護者は少なくないだろう。その際、保護者は子どものことをいい加減にみているつもりはないのだが、保育者から「〇〇ちゃんの親はちょっと熱があっても休ませないんだよね。〇〇ちゃんがちょっとかわいそうだよ」と思われていないだろうかと思ってしまう人もいるのではないだろうか。「先生はどう思っているのだろうか。いい加減な親だと思っはいいないだろうか」と保育者の評価を気にする保護者もいる（清水, 2019）。このように保育者が保護者をどの程度信頼しているのかということも非常に重要になってくる。

そして信頼感に似たものとして歓迎されているかどうかも重要であろう。これには保育者の心や時間の余裕が重要であると考えられる。唐突に園を訪問した際に挨拶されるだけでもそこには歓迎の雰囲気を感じられるのではないだろうか。保護者はさまざまな不安を抱えながら子どもを園に預けている。そういった中で「ここに来ていいんだ」「ここにいていいんだ」という感覚を抱けることはとても大切ではないだろうか。

このように保護者支援、保護者との関係づくりについてはさまざまな取り組みについて検討され、それぞれの重要性が指摘されている。しかし保育者はそれらの取り組みすべてを行なうことはできるのだろうか。保育者という仕事は非常に負担になっている。小尾（2019）は自らが関わった「道北地域の保育者の就業実態と就業意識に関するアンケート調査」を元に、退職意向を抱いている保育士に対してその理由を尋ねている。その結果、「賃金が安い」が68.7%、「仕事量が多い」が61.9%、「労働時間が長い」が47.4%であったと報告している。そして労働時間に関しては、時間外労働が問題になっている。正規保育士のうち「残業をしている」は83.7%、「持ち帰り仕事をしている」は74.3%だった。また「時間内に仕事が処理しきれない」と感じている者は84.7%であった。先に挙げた高橋（2014）も書き物が保育士の負担になっており、記録の作成・記入が勤務時間内に終了せず残業になってしまうという回答がもっとも多いことを指摘している。

保育者はさまざまな業務があり、そのなかで保護者の支援もということになると負担が過剰になってしまうことが危惧される。そこで本研究では保護者を対象に、どのような保護者との関係づくりが園に

対する満足感に繋がっていくのかを調査し、保護者支援、保護者との関係づくりのあり方について考察することが目的である。

## 方法

### (1) 調査協力者

静岡県内19ヶ園（公立幼稚園(こども園込):5ヶ園、私立幼稚園:5ヶ園、公立保育園:3ヶ園、私立保育園:6ヶ園）に子どもを通わせている保護者2126名のうち、回答に不備のなかった741名（回収率:34.9%、公立幼稚園:161名、私立幼稚園:252名、公立保育園:122名、私立保育園:206名）。

### (2) 手続き

園に調査依頼をし、同意の得られた園にアンケート用紙と切手の貼られた封筒を送付し、各保護者への配布を依頼した。回答済みアンケート用紙は送付した封筒に入れ、常葉大学短期大学部宛で返送してもらった。

### (3) 倫理的配慮

保護者にはアンケートに協力せずとも不利益を被らないこと、アンケート結果を園に見せることはないこと、回収したアンケート用紙は厳重に保管し、目的以外には使用しないこと、そして個人が特定できない形で分析し、プライバシーは厳守することを文面で伝え、アンケート用紙の返送をもって調査に同意したとみなす旨を伝えた。

### (4) 調査項目

「お子さんが通っている園とは何年間、関わっていますか（例えば第一子～第三子まで計6年間など）」は子どもがきょうだいで通っていた場合、第一子からトータルでどの程度、園に子どもを通わせているかについて尋ねた。

その他、園の保護者との関係づくりについてどの程度、取り組んでいるのかについて、「園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、連絡帳等で園での子どもの様子を教えてくださいませんか?」、「園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、あなたの話〔悩みや雑談等〕を聞いてくれますか?」、「園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は話しかけやすい雰囲気がありますか?」、「園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕はあなたのことを信頼していると感じますか?」、「園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、あなたのことを気にかけていると感じますか?」、「園は、保護者同士がつながるように工夫してくれていますか?」、「保育参観（保育参加）では、あなたが見たいところを満足に見ることができていますか?」、「保育参観（保育参加）以外に、自由に園や保育の様子、子どもの様子を見学できる機会はありますか?」、「園にどのくらい満足していますか?」の質問項目について5件法で回答してもらった。これらの項目は、幼児のいる保護者5名に子どもが通っている園が行なっている保護者との関係づくりの工夫、あるいはよその園でやっていて、子どもの園でもやってほしいと思う関係づくりの工夫について回答してもらい、それをKJ法によってカテゴリーにまとめて作成したものである。

## 結果

## (1) 各項目の平均値

各質問項目の平均値を算出した結果、表1の通りになった。

表1 各項目の平均値

項目	平均値 (標準偏差)
①園との関わりの長さ	約3年9ヶ月
②子どもの様子を教えてくれるか	3.56 (0.60)
③話を聞いてくれるか	3.56 (0.58)
④話しかけやすいか	3.53 (0.58)
⑤信頼してくれているか	3.20 (0.48)
⑥気にかけてくれているか	3.14 (0.61)
⑦保護者同士の関係の工夫	2.76 (0.77)
⑧保育参観で満足に見られるか	3.22 (0.66)
⑨自由に見学することはできるか	2.51 (0.92)
⑩園の満足度	4.10 (0.76)

園の満足度は4.10であり、保護者のそれぞれの園に対する満足度は高いといえる。ただ⑦保護者同士の関係の工夫や⑨保育参観等以外に園を訪問し自由に見学できるかどうかに関してはそれぞれ2.76と2.51であり、若干低いといえる。

## (2) 公立 / 私立と幼稚園 / 保育所による保護者との関係づくりの違いについて

公立 / 私立という園の運営主体と幼稚園 / 保育所によって保護者との関係づくりの取り組みの程度に違いがあるかについて検討した。その結果、「⑨保育参観（保育参加）以外に、自由に園や保育の様子、子どもの様子を見学できる機会がありますか？」において主効果が認められ、公立園よりも私立園の方が有意に高いことが明らかになった。そしてこの項目以外において交互作用が認められた（表2）。そこで単純主効果を検討したところ、以下のような結果になった。

「②連絡帳等で園での子どもの様子を教えてくださいませんか？」では、公立幼稚園よりも公立保育所の方が有意に高く、公立幼稚園よりも私立幼稚園、私立保育所よりも公立保育所の方が有意に高い。

「③あなたの話〔悩みや雑談等〕を聞いてくれますか？」では、私立保育所よりも私立幼稚園の方が有意に高く、私立保育所よりも公立保育所の方が有意に高い。

「④話しかけやすい雰囲気がありますか？」では、私立保育所よりも私立幼稚園の方が有意に高く、公立幼稚園よりも私立幼稚園の方が有意に高い。

「⑤あなたのことを信頼していると感じますか？」では、私立保育所よりも私立幼稚園の方が有意に高く、私立保育所よりも公立保育所の方が有意に高い。

「⑥あなたのことを気にかけてくれていると感じますか？」では、私立保育所よりも私立幼稚園の方が有意に高く、公立幼稚園よりも私立幼稚園の方が有意に高い。

「⑦保護者同士がつながれるように工夫してくれていますか？」では、公立保育所よりも公立幼稚園の方が有意に高く、公立保育所よりも私立保育所の方が有意に高い。

「⑧保育参観（保育参加）では、あなたが見たいところを満足に見ることができていますか？」では、公立幼稚園よりも公立保育所の方が有意に高い。

「⑩園にどのくらい満足していますか？」では、私立保育所よりも私立幼稚園の方が有意に高く、公立幼稚園よりも私立幼稚園の方が有意に高い。

表2 公立 / 私立と幼稚園 / 保育所による保護者との関係づくりの違い

					主効果				交互作用		
	公立		私立		公立/私立		幼稚園/保育所		F	P	
	幼稚園	保育所	幼稚園	保育所	F	p	F	p			
保 護 者 と の 関 係 づ く り	子どもの様 子を教えて くれる	3.47 (0.05)	3.73 (0.05)	3.60 (0.04)	3.50 (0.04)	1.40	.237	3.28	.071	16.34	.000***
	話を聞いて くれる	3.55 (0.05)	3.63 (0.05)	3.62 (0.04)	3.49 (0.04)	0.69	.407	0.30	.583	6.39	.012*
	話しかけや すい	3.45 (0.05)	3.52 (0.05)	3.68 (0.04)	3.44 (0.04)	3.07	.080	3.54	.060	12.00	.001***
	信頼してく れている	3.20 (0.04)	3.25 (0.04)	3.26 (0.03)	3.13 (0.03)	0.59	.442	1.08	.299	6.21	.013*
	気にかけて くれている	3.07 (0.05)	3.17 (0.06)	3.21 (0.04)	3.10 (0.04)	0.60	.440	0.03	.857	4.55	.033*
	保護者同 士の関係の 工夫	2.90 (0.06)	2.46 (0.07)	2.85 (0.05)	2.78 (0.05)	5.00	.026*	18.92	.000***	9.97	.002**
	保育参観で 満足に見ら れる	3.13 (0.05)	3.32 (0.06)	3.25 (0.04)	3.20 (0.05)	0.00	.992	1.93	.165	6.23	.013*
	自由に見 学すること ができる	2.15 (0.07)	2.25 (0.08)	2.69 (0.06)	2.72 (0.06)	52.03	.000***	0.97	.326	0.32	.572
	園の満足 度	3.97 (0.06)	4.07 (0.07)	4.25 (0.05)	4.10 (0.05)	7.07	.008**	0.12	.733	4.96	.026*

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001 ( )内はSD

## (3) 保護者との関係づくりの項目と園の満足感の関連について

保護者との関係づくりの取り組みと園の満足度がどのような関係になっているのかを探るために保護者との関係づくりの取り組みを説明変数として、園の満足度を目的変数とした重回帰分析を行なった。その際、幼稚園の保護者のみ（表3）、保育所の保護者のみ（表4）、そして全体の保護者の結果（表5）について示す。

まず幼稚園の保護者のみで重回帰分析を行なった。その結果、重決定係数は有意（ $R^2=.30, p<.001$ ）であった（表3）。保護者との関係づくりのうち、「④話しかけやすいか」、「⑥気にかけてくれているか」、「⑦保護者同士の関係の工夫」、「⑧保育参観で満足に見られるか」が園の満足度に影響を与えていることが明らかになった。

表3 幼稚園の保護者における保護者との関係づくりの満足度への影響

		園の満足度
	②子どもの様子を教えてくれるか	—
	③話を聞いてくれるか	—
	④話しかけやすいか	.293***
保護者との	⑤信頼してくれているか	—
関係づくり	⑥気にかけてくれているか	.109*
	⑦保護者同士の関係の工夫	.135**
	⑧保育参観で満足に見られるか	.235***
	⑨自由に見学することはできるか	—

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$ 

続いて保育所の保護者のみで重回帰分析を行なった。その結果、重決定係数は有意（ $R^2=.42, p<.001$ ）であった（表4）。保護者との関係づくりのうち、「②話しかけやすいか」、「⑤信頼してくれているか」、「⑥気にかけてくれているか」、「⑦保護者同士の関係の工夫」が園の満足度に影響を与えていることが明らかになった。

表4 保育所の保護者における保護者との関係づくりの満足度への影響

		園の満足度
保護者との	②子どもの様子を教えてくれるか	—
関係づくり	③話を聞いてくれるか	—
	④話しかけやすいか	.411***

⑤信頼してくれているか	.165**
⑥気にかけてくれているか	.144*
⑦保護者同士の関係の工夫	.113**
⑧保育参観で満足に見られるか	—
⑨自由に見学することはできるか	—

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

最後に幼稚園、保育所双方の保護者で重回帰分析を行なった。その結果、重決定係数は有意 (R<sup>2</sup>=.35, p<.001) であった (表5)。保護者との関係づくりのうち、「②子どもの様子を教えてくれる」と「③話を聞いてくれるか」以外の項目が園の満足度に影響を与えていることが明らかになった。

表5 幼稚園、保育所の保護者における保護者との関係づくりの満足度への影響

	園の満足度
②子どもの様子を教えてくれるか	—
③話を聞いてくれるか	—
④話しかけやすいか	.322***
保護者との	
関係づくり	
⑤信頼してくれているか	.090*
⑥気にかけてくれているか	.108**
⑦保護者同士の関係の工夫	.090**
⑧保育参観で満足に見られるか	.143***
⑨自由に見学することはできるか	.087*

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

## 考察

### (1) 保護者との関係づくりの取り組みについて

今回の研究では保護者を対象として園による保護者との関係づくりの取り組みが園に対する満足度どのような影響を与えるのかについて検討した。まず今回の調査に協力してもらった園の取り組みのうち、「⑦園は、保護者同士がつながれるように工夫してくれていますか?」と「⑨保育参観 (保育参加) 以外に、自由に園や保育の様子、子どもの様子を見学できる機会がありますか?」に関して、保護者はあまりなされていないと判断していることが明らかになった。しかしそれ以外については比較的行なわれているという判断であった。また大森 (2017) 同様、今回の研究でも保護者の園に対する満足度は4.10と高かった。

保護者が把握している園による保護者との関係づくりの取り組みの頻度は、園によって異なっていた。



多くの側面において、私立幼稚園は関係づくりの取り組みを比較的よく行なっていると判断されていた。また公立保育所も3つの側面について比較的よく行なっていると判断されていた。その一方、公立幼稚園と私立保育所は多くの側面において、私立幼稚園や公立保育所に比べてあまり行なっていないと判断されていた。

多くの私立幼稚園では入園児が定員を満たしていない。そのため私立幼稚園は入園児の募集に力を入れていると考えられる。そういった中で他の保育施設にくらべて保護者との関係づくりの取り組みについてよりよく行なっていると考えられる。

## (2) 保護者との関係づくりと園の満足度の関連について

幼稚園の保護者との関係づくりの取り組みと園の満足度の関連について、「④話しかけやすいか」がもっとも関連しており、次いで「⑧保育参観（参加）で満足に見られるか」、「⑦保護者同士の関係の工夫」、そして「⑥気にかけてくれているか」が関連していた。

保育所の保護者との関係づくりの取り組みと園の満足度の関連について、「④話しかけやすいか」がもっとも強く関連しており、次いで「⑤信頼してくれているか」、「⑥気にかけてくれているか」、そして「⑦保護者同士の関係の工夫」が関連していた。

幼稚園、保育所双方の保護者との関係づくりの取り組みと園の満足度の関連について、「④話しかけやすいか」がもっとも関連しており、次いで「⑧保育参観（参加）で満足に見られるか」、「⑥気にかけてくれているか」、「⑤信頼してくれているか」、「⑦保護者同士の関係の工夫」、そして「⑨自由に見学することができるか」が関連していた。

幼稚園と保育所全体で園の満足度に影響を与えていない項目は「②園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、連絡帳等で園での子どもの様子を教えてくださいませんか?」と「③園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、あなたの話〔悩みや雑談等〕を聞いてくれますか?」であった。しかし多くの先行研究において、連絡帳によって保護者と情報のやり取りをやることは、重要な保護者との関係づくりの取り組みの一つとして考えられている(半澤, 2015; 林, 2015; 伊藤, 2017a, 2017b; 二宮, 2010, 2022; 須永, 2019, 2022)。また園の取り組みとして保護者とのコミュニケーションの重要性が指摘されている(久保田・石野, 2018)。そして西野(2008)や上原(2022)は、保育者が保護者の話を聞いてくれるということが保護者にとって大切だとしている。しかし今回の調査ではこれらの取り組みは園の満足度に影木ようを与えていなかった。

## 総合考察

本研究で得られた結果のポイントは次のようになるだろう。「②園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は、連絡帳等で園での子どもの様子を教えてくださいませんか?」は園の満足度に影響を与えていない一方で、「④園の保育者〔保育士もしくは幼稚園教諭〕は話しかけやすい雰囲気がありますか?」や「⑧保育参観（保育参加）以外に、自由に園や保育の様子、子どもの様子を見学できる機会はありますか?」、「⑨保育参観（保育参加）以外に、自由に園や保育の様子、子どもの様子を見学できる機会はありますか?」

といった項目は園の満足度に影響を与えていたという点である。

これは自律性、主体性をどこにあるのかという問題に関連すると思われる。というのも、連絡帳やおたよりなどで保育者が子どもの様子を保護者に知らせる際、保育者が主体となり、保護者は客体となる。それに対して、保護者が保育者に話しかけたり、保護者が自由に園内を見学したりする際、保護者が主体となる。つまり有意差の見られた項目は、保護者が主体となるような取り組みであるのに対して、有意差の見られなかった項目は、保育者が主体となるような取り組みになっている。

そのため、保育者が主体となり、さまざまな手段で子どもの様子を伝えようとも、保護者はそれを求めている可能性がある。そのような取り組みよりも、保護者が主体となり、園に関わっていくことを求めている可能性があるのだ。以前から保護者との関係づくりにおいて、保護者の主体性の重要性は指摘されている。例えば榎田(2004)は母親が主体的な生き方ができるような支援が必要だと述べており、無藤(2008)は、保護者を支援することは保護者に依存させることだとし、保護者の自律性を尊重した支援について指摘している。

そしてこのことは保育者の働き方にも関係すると考えられる。というのも連絡帳や記録の作成などが残業となり、保育者の負担になっている(小尾, 2019; 高橋, 2014)。これらは保育者が主体となった関わりであり、保護者の満足を得られない保護者支援と言える。そうであるならば、こういった書き仕事の分量を減らし、保護者が主体となる保護者支援に力を入れることで、保育者の業務負担を減らすことができるのではないだろうか。保育者はさまざまな業務があり、そのなかで保護者支援もということになると負担が過剰になってしまうことが危惧されるため、保育者主体の支援から保護者主体の支援への変更によって多少の負担軽減を図ることができるのではないだろうか。

以上をまとめると、従来の保護者支援は保育者主体の支援と保護者主体の支援が混在していること、保育者主体の支援は保育者の負担が重い可能性があること、そしてこの支援は保護者からの満足が高くないことが明らかになった。そこから今後の保護者支援としては、保護者主体の支援に力を入れることで、保育者の業務負担を軽減し、働きやすい労働環境の創出につながるのではないかと考えられる。

## 参考・引用文献

安家 周一・濱名 浩・磯部頼子 2013 価値観が多様化する保護者にどのように保育観を伝えるか これからの幼児教育, 2013 秋号, 5-7.

Bronfenbrenner, U. 1979 The Ecology of Human Development: Experiments by Nature and Design. Harvard University Press (磯貝芳郎・福富 護(訳) 1996 人間発達の生態学: 発達心理学への挑戦. 川嶋書店).

藤川志つ子 2022 保護者に対する保育活動の伝え方の変更による効果の検討: アンケートの分析から見えてきたこと 淑徳大学短期大学部研究紀要, 64, 145-151.

半澤幸恵 2015 保育所における幼児連絡帳にみる保育者と保護者の関係変容プロセス 中部教育学会紀要, 15, 30-39.

長谷川孝子 2016 保育参加導入に関する保育者の意識についての研究Ⅱ: 保護者の保育士体験を中心として 清泉女学院短期大学研究紀要, 34, 32-42.

- 橋本真紀 2022 保護者との良好な関係構築のために、保護者が備えるべき専門性 保育の友, 70(12), 13-17.
- 橋本 翼 2017 保育所における保育者と保護者の「対話の場」によね子育て支援の可能性：保護者の語りの分析を通して 近畿大学九州短期大学研究紀要, 47, 124-135.
- 蓮見千咲・松坂真菜美・栗木奈緒 2022 保護者同士でおしゃべりをして悩みを共有したい！ ちいさいなかま, 725, 30-34.
- 林 悠子 2015 保護者と保育者の記述内容の変容過程にみる連絡帳の意義 保育学研究, 53(1), 78-90.
- 保護者と保育者 行事や保育で関わりがある？ 2017 ちいさいなかま, 654, 20-25.
- 伊藤 優 2017a 乳児に対する保育士と保護者の連絡帳を用いた連携の様相：「食事の連絡帳」のやりとりの分析から 保育学研究, 55(3), 33-45.
- 伊藤 優 2017b 「食事の連絡帳」を媒介とした保育者による保護者支援：遊び食べや好き嫌いが激しい1歳半の男児 Y の事例から 日本家政学会誌, 68, 609-620.
- 厚生労働省 2018 保育所保育指針解説 フレーベル館
- 久保田智子・石野陽子 2018 保育者による保護者支援のあり方：保護者の必要とするサポートを踏まえた検討 教育臨床総合研究, 17, 59-73.
- 丸国朋子 2022 保護者同士のつながりが保育・保育者の安心と支えに ちいさいなかま, 726, 35-41.
- 永田 誠 2019 親の「語り」を通じた子育てにおける「学び」：クラス別保護者懇談会における家庭生活に関する内容に着目して 日本生活体験学習学会誌, 19, 23-39.
- 内閣省・文部科学省・厚生労働省 2018 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館
- 望月 彰・工藤英美・山本理絵 2013 保育園・幼稚園における子育て相談と親のニーズとのズレ：全国調査(保育・子育て3万人調査)の経年比較より 人間発達学研究, 4, 47-64.
- 文部科学省 2018 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 中山智哉 2019 幼稚園における保護者の相談ニーズに関する研究：子育て相談の利用を阻害する要因・促進する要因 こども学研究, 1, 71-84.
- 二宮祐子 2010 保育者-保護者間のコミュニケーションと信頼：保育園における連絡帳のナラティブ分析 福祉社会学研究, 7, 140-161.
- 二宮祐子 2022 連絡帳をとおした保育者と保護者の相互理解 季刊保育問題研究, 315, 50-57.
- 認定こども園 せんりひじり幼稚園 2016 園内に育んだ「信頼感」をベースに保育者が子どもと一緒に伸びていく環境づくり これからの幼児教育, 2016 夏号, 10-17.
- 西野美佐子 2008 保育者と保護者の関係におけるコミュニケーション 後藤宗理(編) 保育現場のコミュニケーション：発達心理学的アプローチ, 59-92.
- 小尾晴美 2019 なぜ、保育士が足りないの？：保育現場での人員不足の背景と課題 ちいさいなかま, 685, 30-39.
- 大森弘子 2017 育児不安を抱える保護者が示す保育者への役割期待 応用教育心理学研究, 33(2), 15-26.
- 大村 綾 2018 保育園の保護者支援における親の気付きに関する考察：「一日保育士体験」活動に着目して

日本生活体験学習学会誌, 18, 33-42.

柴崎正行・会森恵美 2016 保育所における保護者支援についての検討:「クラスだより」の分析を通して  
大妻女子大学家政系研究紀要, 52, 157-162.

島津礼子 2014 幼稚園の「保育参加」における学びの生成について 保育学研究, 52(3), 34-44.

清水玲子 2019 保護者と保育者はともに子どもを育てるなかまというけれど ちいさいなかま, 684, 88-  
93.

須永真理 2019 保育所における保護者支援の現状と課題:連絡帳記載内容に関する保育者間での話し合  
いの場所に注目して 和泉短期大学研究紀要, 40, 25-31.

須永真理 2022 自己主張期の子どもをもつ保護者に対する連絡帳を用いた子育て支援に関する研究 保育  
学研究, 60(1), 69-80.

高橋紘 2014 総論 保育士における業務の負担軽減に関する課題 平成26年度保育士における業務の負担  
軽減に関する調査研究報告書(社会福祉法人日本保育協会(編)), 9-16.

隣谷正範・大谷誠英・川上ゆかり・牧田和美・丸山博美・黒江美幸・美谷島いく子 2016 保育現場にお  
ける保護者の気付きの質に関する研究:保育参加及び保育参観後の自己分析から 松本短期大学研究  
紀要, 25, 13-21.

上原真幸 2022 保護者と一緒に考える保育:傾聴と対話を 季刊保育問題研究, 315, 8-18.